

道路の改良と農村振興策に就て

小川了吉

秀逸

自然及自然力は人力を加ふるに非ざれば其の欲望を補足せしむること能はず。土地の如きも自然其の儘にては如何に豐沃なる地と雖も穀物を得ること能はず。必ずや之に勞力を加へて始めて其の用を爲すものとす。

故に生産には如何なる場合と雖、自然殊に土地と勞働とを缺くべからざるは疑を容れざる所なり。されど單に土地と勞働のみにては之亦生産の實を擧ぐること能はず。之が助を爲す貨財即ち資本を要すること明なり。即ち自然、勞働及資本を以て生産の要素と爲す所以なり。

就中土地及勞働は基本的のものにして往昔の經濟學者は勞働を以て富の父に擬し土地を以て其の母に譬へたるもの故に非ず。洵に刻苦勉勵の人と雖も土地の協力なくば、一物をも生産すること能はざるは自明の理と云ふべし。即ち土地は生産に關して場所を提供し、原料を供給し又は培養能力を有する等の點に於て特殊の意義を有するものなり。

されど土地其のものは自然的に其の位置を限定さるゝが故に交通機關備はらず若くは運賃多額を要して收支相償はざるに於ては其の生産品たるや結局不生産的生産品として何ら國民生活上に利益を齎すこと能はざるべし。

之ら不生産的生産品をして經濟的に活用し生産の實を擧げしむるは實に交通機關の賜物にして近世經濟學に於て交通經濟を以て生産資本の一に數ふるは故なきに非ざるなり。

而も二十世紀に於ける自然科學の進捗は蒸氣力、電氣力に依る機械の發達を促し之が生産方法に應用され、近代社會の總ゆる現象の根本を爲せる所謂產業革命となり更に一轉して正に交通革命の時代を現出しつゝあるなり。

之の如く交通機關は經濟上重要な地位を占むるを以て其の整否如何は即ち文明のスケールを表はし國民生活上寸時も等閑に附すべきに非ざる問題なり。

思を之に致して歐米先進國の實狀を見るに道路網、鐵道網の發達と文明とは正に正比例して進みつゝあるは實に交通問題の重大なることを裏書しつゝあるものと言ふべし。「ローランド・ビビン氏の「人口が二倍に増加すれば交通量は八倍に増加す」との數字的意見に徴するも、之の幾何級數的に増加しゆく交通量の要求に應すべく最も迅速にして而も最も大量を裁き得べきものは將來と雖も道路及鐵道に寄るの外なきは察知するに難からざる所なり。

而して之等二者の輕重は基より輕々速斷し能はざるものにして、あたかも車の兩輪の如く相寄り相助けて其の使命をはたすべきものとす。

即長距離に亘る大量の輸送は固より鐵道に依らざるべからざるも近距離の輸送は其の迅速の度に於て又費用の少額なる點に於て自動車を以て道路上を疾走するに如かず。獨り近距離輸送のみならず年を逐ふて一面道路の改良發達を伴ひて長距離の自動車輸送も亦次第に實現されんとしつゝあり。

之の如く交通機關の發達日に月に進みて都市文化の進展に寄與しつゝあるも其の裏面には急激なる都市膨脹及之に伴ふ農村の衰微を來しつゝあるは眞に寒心すべき事體なりとす。

其の原因の斯邊に在るやを訪ねるに産業革命の結果手工作少量生産方法は大工場に依る大量機械生産の方法に變化し、一處に多量の労働力を要する製造工業は各處に散在するよりも勞力、機械、資金を節約し得ること、副產物の利用、原料の仕入、製品販賣を經濟的に爲し居ること等よりして都市の如き交通の便あり、労力を得るに容易なる又種々の生産補助機關の存在せる地に集中するに至れる所を以て交通機關の進歩發達と相俟つて農村の人口は次第に都市に集中するに至れるものなり。

之を農村側より見るに、現今之農村は多くは交通不便なるを以て折角額に汗して得たる收穫も其の販路なく又は運搬費の過大となる爲何らの利益をも齎らせず、或は農民自身の無智より狡猾なる仲買人の爲捨値同様に買取られ勞多くして功少き結果となり益々彼等をして悲境に陥れつつあるなり。

更に一原因として商工業に依る金錢收入は一般に農業に依る金錢收入より大なるを常とするを以て貨幣經濟時代たる現今に於ては其の金錢收入の農村より都市の多きは農村住民の營利心を刺

轉すること甚だ大なるものあり。或は都市に於ける職業は多種多様にして職業を求むること容易なり。之の如く營利の爲都市の農村より適せるは他の教育機關、娛樂機關の完備と共に生活上の便宜多く都市へ農村の人口を集中せしむるに至れり。

之の結果農村に於ては其の衰微を來し都市に於ては不然自なる膨脹の結果生存競争激烈を極め爲に死亡率を高め思想の悪化を來し遂に都市生活呪ふべしの聲を聞くに至れり。

而かもかゝる都市生活の弊害は急激なる都市の膨脹を自然の儘に拠擲して何等の対策をも講ぜざりしより来るものにして都市經營の方法宜しきを得ば右の弊害は全然除却さるゝのみならず都市と共に農村も亦繁榮し從て農村住民も亦都市住民と共に近代文明の中心たる都市の恩恵に浴することを得るなり。

都市と農村とを二元的に全然異れるものと見ることは大なる誤解にして飽くまで一體の兩角と見るべく農村の振興を計らんが爲都市生活を否定せんとするが如きは現代の生産方法に基く經濟組織が根本的に變革せざる限りは絶對的不可能事に屬す。

現代の人間は獨り都市生活にのみよりて生活すれば滅亡し農村生活のみに依りて生活せんとするも亦滅亡を免ぬかる能はず。即ち將來と雖農村と都市とを相孤立するが如き都市經營も農村經營をも共に存在することを許されざるなり。之を以て見るに將來の都市經營も農村經營も共に都市を農村の中心たらしめ農村を都市の縁邊たらしめんとする所謂綜合都市計畫に基づかざるべからず。

換言すれば綜合都市計畫とは一定の經濟的地域内に於ける多數の自治體に共通なる問題の協同的解決策にして、緣邊農村より都市に出入する交通道路及鐵道の位置を有効に定め、都市の將來の發展を統整し併せて農村の振興に資せんとすることに依りて解決すべきものなり。

現在唱導されつゝある農村振興策として生産販賣組合組織低利資金貸付、副業獎勵及所謂公平なる肥料の分配等あり、何れも必要缺くべからざるものなれども之らの諸政策は農產物生產上の重要事項にして更に重大なるは、生産物販賣組織の完成及生産者たる農民と消費者たる都會人との中間の勞費を節約し双方をして利益を得しむべき交通の進歩發達にあり。

即ち交通機關就中道路の發達普及は地理的に遠隔なる土地も經濟的に其の距離を短縮し其の生産品は直接迅速に而も低廉に需要地に輸送され生産費を減少せしめ産業の發達を助長し地方經濟の振興を促し自ら農村生活を安定せしめ向上せしむることを得るなり。

更に之を具體的に述ぶれば、若し完全なる道路網の發達と道路技術の進歩とを以てせば沿道の農村物は自動車に依りて自由に集められ、迅速に低廉に而も隨時に市場に搬出し得、農民は之に依りて收入を増加し副業を盛大ならしむるのみならず、生産過剰に依る價格の下落をも防止し得べく都會人は常に新鮮なる材料を得て而も其の生活を容易ならしむべし。

然るに今日の如き状態にては大都市近郊以外の農民は何ら都市の恩恵を被らず、都市も亦生活程度高きを以て其の費用の大なるは疑ふに足らずとなすは甚だしき謬見にして畢竟するに交通の不備不便が齎らす双方の不經濟より來れるものなるに氣附かざるが爲なり。

要するに道路の改良發達は密集せる都市の人口を分散する都市の田園化となり農村は都市との連絡を密接にすることに依りて田園の都市化となり相融合し相寄り相助けて益々國民生活を進歩向上せしむることを得るなり。

農村の振興を標榜せる前内閣が産業道路助成費として二百萬圓の豫算を計上せるは即ち道路の新設改修に依りて産業の發達を計り地方の開發を促し以て農村の振興を計らんとするに外ならざりき。

古來農業立國を以て進み來れる我が國は其の合理的緊急施設として都市と農村との連絡道路の普及發達を計るべきは地方振興問題としてのみならず都市政策の上よりするも當面唯一の緊喫事なりと信じて疑はざる所なり。 (完)